

旧八幡図書館二つの活用例を提案します。

村野藤吾と近代遺産のまち・八幡たてもの応援団

八幡図書館はリノベーションしやすい規模、構造と言えます。

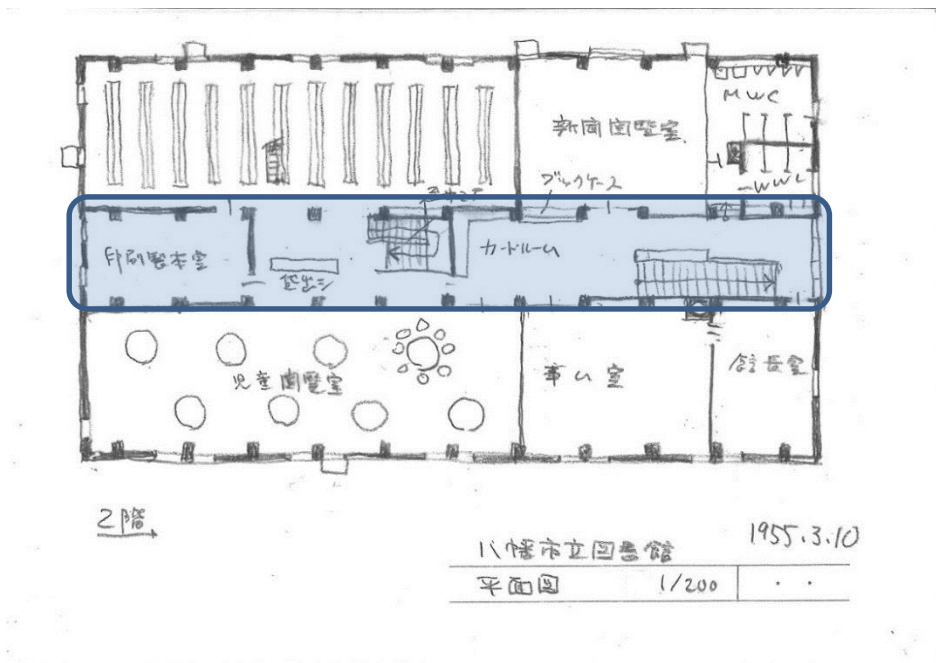
収蔵庫は鉄骨床となっているため、床を外して2,3階吹き抜けとすることができます。南の日差しが北側まで届き、明るい空間になります。駐車場に旧図書館を残すことで、病院を受診する人や家族にとっても憩いの場所となります。また災害時に駐車場は臨時的な野外病院となった場合もその拠点となります。

村野藤吾が故郷八幡の復興のために初めに行った設計

- 京都工芸繊維大学に村野藤吾の設計図、当初のスケッチが保管されていますが、その資料をみると、プランの練り直し、窓の位置・レンガパターン・バルコニーなども村野自身がスケッチを残しています。
- 早くもブックモビールを取り入れ、児童室の充実をはかる八幡図書館は、戦後中小図書館の先陣を切っていました。(建築当初は閉架式であったため、閲覧室が狭くなくなっていました。)
- 朝鮮戦争の資材高騰により、設計をやり直しています。

コスト縮減のテーマへの真摯な回答

- 桁行 3mスパンの格子状の軸組み計画
- 最小の階高とし、天井をはずす、露出した梁を廊下と居室の間仕切りの位置におきました。
- 廊下=南北のエリアの架構をスラブだけでつなぎ、短い梁への応力集中を避ける。いわば「三枚おろし」としたため、緩やかな階段が実現しました。

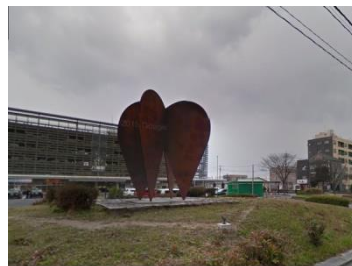


旧八幡図書館活用提案-1

官営八幡製鐵所関連施設が世界遺産に登録されましたが、八幡製鐵所内にとどまり八幡の街に広がりを感じられません。八幡製鐵所のある八幡地区を鉄と世界遺産（産業遺産）で街の魅力を作り上げることが、街の活性化につながるのではと考えます。

■ 鉄と世界遺産の街を感じさせる駅前

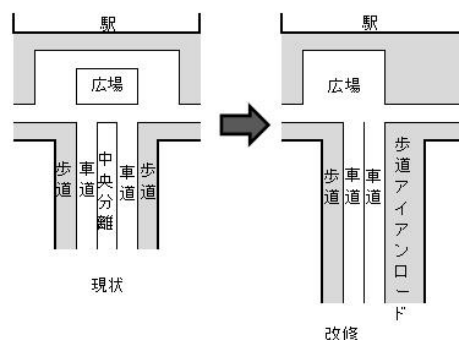
観光客が八幡駅を降りて目に入る風景は、鉄の彫刻（右図）が一つ置かれていますが、それだけでどこにでもある駅前風景です。鉄と世界遺産（産業遺産）の街というイメージは伝わりません。街の魅力を上げる第一歩として、旧八幡市立図書館を鉄と世界遺産（産業遺産/近代化遺産）のビジターセンター及び鉄を素材とする芸術家達の活動拠点とし、駅前から市民会館へと続く道をアイアンロード（鉄の道）とすることを提案します。



観光客が八幡駅を降りて目に入る風景は、鉄の彫刻（右図）が一つ置かれていますが、それだけでどこにでもある駅前風景です。鉄と世界遺産（産業遺産）の街というイメージは伝わりません。街の魅力を上げる第一歩として、旧八幡市立図書館を鉄と世界遺産（産業遺産/近代化遺産）のビジターセンター及び鉄を素材とする芸術家達の活動拠点とし、駅前から市民会館へと続く道をアイアンロード（鉄の道）とすることを提案します。

■ 駅からビジターセンターへ続くアイアンロード（鉄の道）

駅から鉄と産業遺産・近代化遺産のビジターセンター／八幡市民会館に向かう広い歩道を鉄をイメージしたアイアンロードとして整備します。八幡駅を降りた観光客に“鉄の街に来た！”と感じさせる駅前になります。



- 中央分離帯を止め、広い歩道（アイアンロード）を作ります。
- アイアンロードには大きな鉄の彫刻を並べます。
- 歩道は鈹滓煉瓦を加工し、敷き詰めます
- 両側の店舗錆びた鉄板の外装とし、チープさを活かし鉄の街らしい個性的な街並みとします。

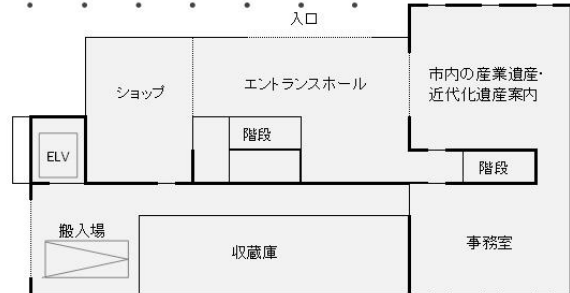


錆びた鉄をイメージした若者の人気スポット 左 ZEST[東京] 右 WARE HOUSE[川崎]

■ 鉄と産業遺産・近代化遺産ビジターセンター

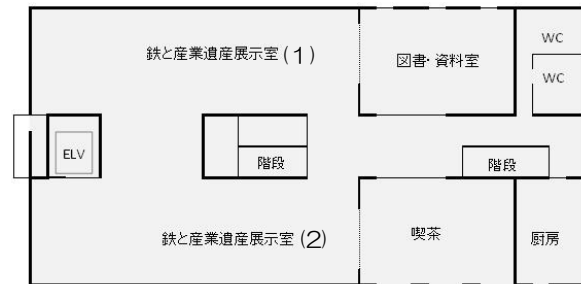
1F

- 観光案内所・・・観光客に市内の産業遺産・近代化遺産群を紹介します。
- ショップ・・・鉄の産業遺産・近代化遺産のグッズを販売します。
- 収蔵庫・・・展示品や鉄の工房で制作した作品の収蔵庫です。
- 搬入場・・・展示作品の搬入を行う車が止まります。運搬用の大型のエレベータが隣接しています。



2F

- 鉄と産業遺産展示室・・・鉄と産業遺産・近代化遺産の展示室です。展示室(1)は旧図書館書庫の2層分の吹抜け空間になっています。
- 図書・資料室・・・鉄と産業遺産・近代化遺産に関する資料を見ることができます。
- 喫茶・・・鉄で栄え、人々が集まった時代を再現するインテリアとします。



喫茶室のイメージ

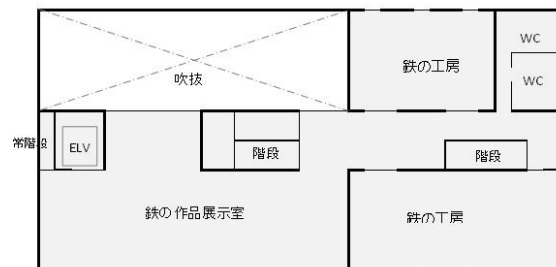
3F

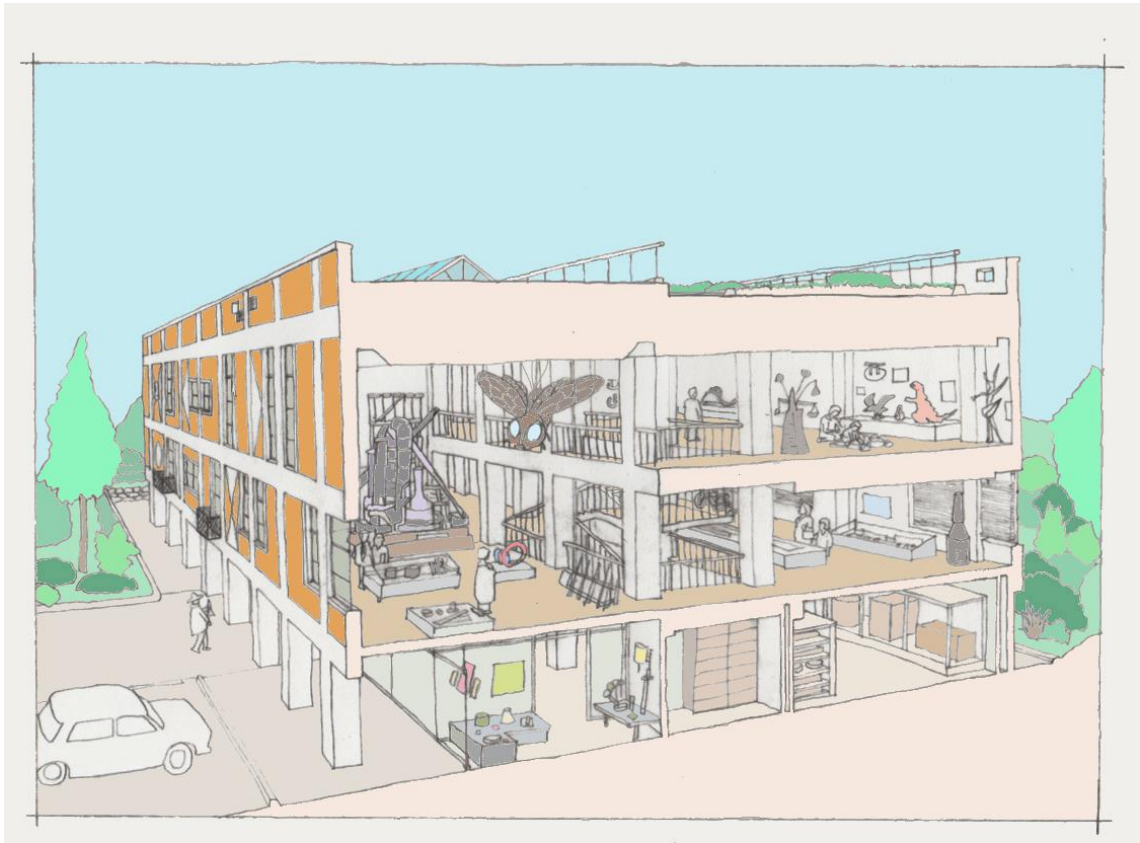
- 鉄の工房・・・鉄のアートを制作する芸術家の工房です。観光客は鉄のアートを制作する現場を見学することができます。

更に若手の鉄の芸術家達を誘致し、その製作場所を提供します。旧図書館を拠点に更にはまちの中の空き家を工房として安く提供します。

かつて鉄で栄えた八幡の町を鉄の町としてにぎわいを復活させます。

- 鉄の作品展示室・・・鉄の工房で制作した作品の展示室です。





旧八幡図書館活用提案－2

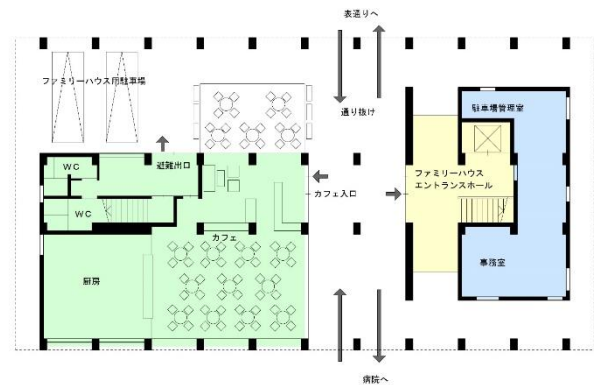
困難な病と闘う子どもたちを支える 「ファミリーハウス」として利用

八幡病院は従来的一般診療に加え、子どもの専門医療機関としてさらに充実した医療を提供するために建て替えを実施します。

小児患者の精神的な支えには家族の助けが必要です。家族の宿泊費負担を少なくするために生まれた施設が「ファミリーハウス」と呼ばれ、全国に広がってきています。保険会社電気会社などの企業が運営する例も増えてきています。更に長期入院して学校に行くことができない子どもの教育の場も提供します。

1階 駐車場管理室とカフェ

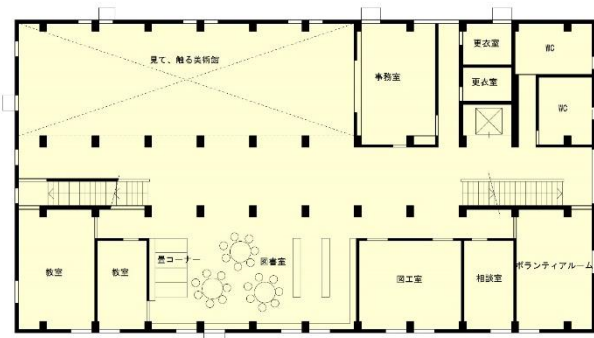
- 駐車場の管理室と事務室
- 一般患者や駐車場利用者のためのカフェ
- 民間に場所を貸し出します。
- ファミリーハウス利用者のための屋根付き駐車場



1F平面図

2階 子ども病棟の入院患者のためのアクティブなフロア

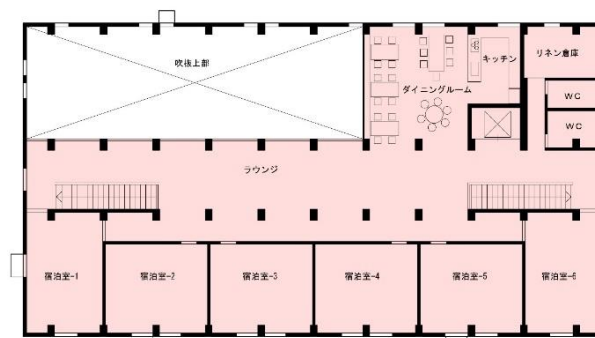
- ファミリーハウスを管理する事務室
- ボランティアルーム
- 見てさわる美術館
- 子ども図書館
- 教室・一般教室・図工室
- 患者家族のための相談室



2F平面図

3階 子ども病棟の入院患者と家族が共に過ごすフロア

- ファミリーハウス・宿泊室6室・看病に訪れる家族の宿泊・患者と家族が共に過ごす第2の家。各室にはミニキッチン、バストイレを備える。
- ダイニングルームとキッチン・自分で料理を作り、食べるスペース、各室に持って行き食べることもできる。
- ラウンジ・病状が重く、2階に下りることができない子どもも吹き抜けから展示を見ることができる。



3F平面図

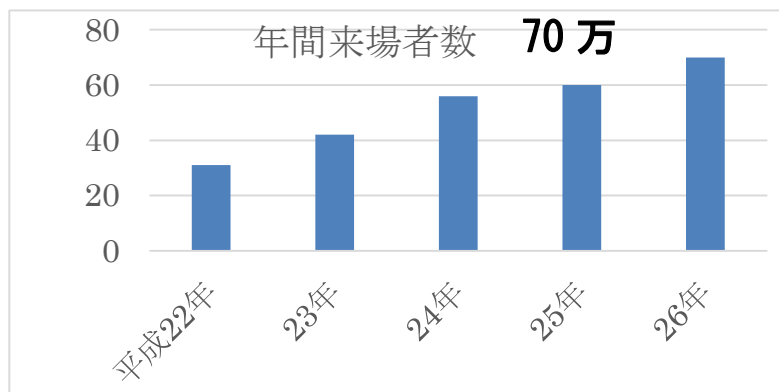


活用案作成：村野藤吾と近代遺産のまち・八幡たてもの応援団
建築専門家グループ：桐原武志・市川達夫・大橋智子

モデル例ー1 アーツ千代田 3331

東京千代田区の中学校を、年間 70 万人が利用するアートセンターに改修

- 改修費用、維持管理費、すべて事業者負担とし、千代田区は年間約 850 万円の家賃を受け取る。
- 秋葉原近くの小さな学校(土地 3724 m²、建物 7239 m²)
- 入居事業者 24 団体、営利(株式会社など)、非営利(NPO、NGO など)
- 視察は海外からも訪れるほど注目されている。
- 年間のイベント、展示会、332 件、常にアートで賑わい、経済効果 13 億円と推計



モデル例ー2 弘前市 スターバックスカフェ

- 旧第八師団長官舎(大正 6 年)を平成 25 年に移築・改修工事を実施。
- 市役所は会議室として利用し、公開は春・秋のまつり時期のみであった。「見学する」施設を「稼ぐ」施設に変え、市の家賃収入約 150 万円/年。おしゃれなスターバックスとして、マスコミ、ネットでも取り上げられる。

